

大阪錦繪新話

第廿六号

尾州豊橋札木町。因田火作との者へ日頃邪見か
其よ女房おせきと常々。非道よある不入情も
あつこと評判とよりけ哀きふひんさ。三月三日の
事あり。女房おせきと引きて。此頃午前のそのり
で。姦夫おせは相違は白状し。と責めて。
おせきへあふ身は。寛みささけども聞いまで。
慈悲あさけ。内儀は。柱は縛り無法も。
焼くとも責らる。おせきが五臓焼たき。
すでは命も危き。あふや其悪事か
あふまで。忽ち火作へ召く。身
ごと。お仕合このおせき。身へ

せめてきて亭主へ。とんき
と活あつこと。かわの
とつて。いごごのま
せんり



略誌画圖 笹木 芳麓

阿波文叔 彫福三